

大学体育実技の履修に関する実態調査

— スポーツ科学演習の受講状況から —

Fact-finding about Study of University Athletics

天田 英彦*、青木 敦英**

Hidehiko Amada, Atsuhide Aoki

「健康科学理論」受講者を対象として、スポーツ科目の履修の有無とスポーツ観との関連性について検討を行った結果、スポーツ科目を受講した学生はスポーツ活動を通して友人作りを行っていることなど、授業の効果が現れていることが推察された。また、運動の不得意な学生が、スポーツ科目を受講しない傾向にあることから、運動が不得意な学生に対しスポーツ科目をどのように受講させられるかが重要な課題であると考えられた。

キーワード：大学体育、学生意識、実態調査

I. はじめに

大学教育の中で、必修から選択科目として大きく変化してきた保健体育科目は流通科学大学(以下本学とする)においても同様の経緯をたどっている。平成 18 年度より選択科目となり、実技科目から演習科目とし講義と実技をミックスさせ、理論に基づいた実践を行うことを目的として科目提供を行っている。さらに意図的な身体活動の必要性を、生活習慣病予防の観点などから「健康科学理論」の講義の中で理解させることにより、スポーツ活動の重要性を啓蒙している。

これまでに大学体育に関するアンケート調査や報告においては、体育・スポーツ科目は他のカリキュラムに比べ学生からの評価、満足度が高いといった傾向を示している¹⁾²⁾³⁾。本学の授業アンケートにおいてもスポーツ健康科目を履修した学生からの評価が高く、授業の満足度も高い傾向にあることを報告している⁴⁾。そして、大学体育に関するアンケート調査を実施し、大学生にとって「運動の楽しさ」が重要な因子となっていることや⁵⁾、女子学生に対して実技教育の必要性を理解させる取り組みが必要であること¹⁾を報告している。さらに、どのような開講種目を求めているのか調査し学生が求めているスポーツの提供を実施している⁶⁾。

* 流通科学大学商学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

**流通科学大学商学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

しかしながら、今までの調査方法において受講学生を対象にしていたことから、比較的スポーツ科目を好意的に受け入れている学生であったと考えられる。そこで、調査対象を全学生とするために、本学で必修科目として開講されている「健康科学理論」受講者を対象者とし、スポーツ科学演習の受講状況別に「スポーツに対する価値観」について調査し、なぜ履修をしないのかといった学生の実態把握とともに、スポーツ科学演習の課題を明らかにし、今後の施策について検討を行った。

II. 方法

1. 調査対象

2009年度本学「健康科学理論」受講者を対象者とした。調査実施日は、前期履修者は2009年7月の前期授業最終講義日に、後期履修者は2009年9月初回講義日に行った（なお、2年生以上の履修者は再履修者であった）。前後期併せて1,077名が対象となった。

2. アンケート調査および分析方法

調査は、無記名による質問紙法で行った。アンケート調査内容は、受講の理由や動機を探る質問、スポーツに関する価値観についての質問を用意した。実際に行ったアンケート内容を表1に示した。データは、エラー値、欠損値を含むデータリストをカットし、1,019名のデータを有効データとした。その有効データを基に性別および受講状況別でQ7のスポーツ活動およびQ8将来の自分自身のスポーツ活動について受講状況別にカイ2乗検定を用いて受講状況間の検定を行った。なお統計的有意水準は5%未満とした。

III. 結果および考察

1. スポーツ科学演習の受講状況から

アンケート対象者の学年、性別およびスポーツ科学演習の受講状況の割合を図1に示した。スポーツ科学演習の受講状況（グラフ右）についてみると、42%の学生が現在受講していると回答し、17%の学生が受講を希望したが選考漏れしたと回答していた。このことは、半数以上の学生がスポーツ科学演習の受講に対して積極的な意識を持っていることが窺えた。

表 1. アンケート内容

スポーツ健康科目 学生実態調査	
Q1. 学年は	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. その他()
Q2. 性別	1. 男性 2. 女性
Q3. あなたはスポーツ科学演習を	1. 受講している 2. 受講していない 3. 受講したが選考漏れした
Q4. Q3で「1. 受講していると答えた方、なぜこの授業を履修しましたか。	(複数回答可)
	1. 単位修得のため 2. 運動不足解消のため 3. 楽しむため 4. 健康・体力の維持増進 5. 友人を増やす 6. 競技の技術向上のため 7. その他()
Q5. ①Q3で「2. 受講していないと答えた方、履修しなかった理由をお答えください。	(複数回答可)
	1. 更衣するのがめんどくさい 2. スポーツ活動が嫌い 3. 必要ないから 4. 履修するつもりがないから 5. 時間割の関係で履修できないから 6. 今後履修する予定である 7. 一緒にやる仲間がない 8. 身体的事情によりできない ②スポーツ活動の必要性は 1. 感じている 2. 感じていない
Q6. Q3で「3. 受講したが選考漏れした」と答えた方、今後の履修についてお答えください。	
	1. 来年度以降受講する 2. 時間割があてれば受講する 3. 受講しない 4. 余暇生活演習を履修する
Q7. スポーツ活動を通じてあなたがどの様に思うのかお答えください。	
	【5よく当てはまる 4やや当てはまる 3どちらともいえない 2当てはまらない 1全く当てはまらない】
	1. 健康増進に役立つと思う 5 4 3 2 1 2. 多くの友人を作ることが出来たと思う 5 4 3 2 1 3. 体力を高めることが出来たと思う 5 4 3 2 1 4. 楽しむことが大切である 5 4 3 2 1 5. 技術の向上が望める 5 4 3 2 1 6. 気が向いたときに行うものである 5 4 3 2 1 7. 運動は得意である 5 4 3 2 1
Q8. 将来の自分自身のスポーツ・運動実施について当てはまるものについて一つ〇をつけてください。	
	1. 将来も今以上に積極的にスポーツをしたい 2. 将来も今のようにスポーツを続けたい 3. 将来は今ほどスポーツをやらない 4. 将来はもうスポーツをやめようと思う 5. 将来はスポーツを(また)始めようと思う 6. 将来もスポーツはするつもりはない

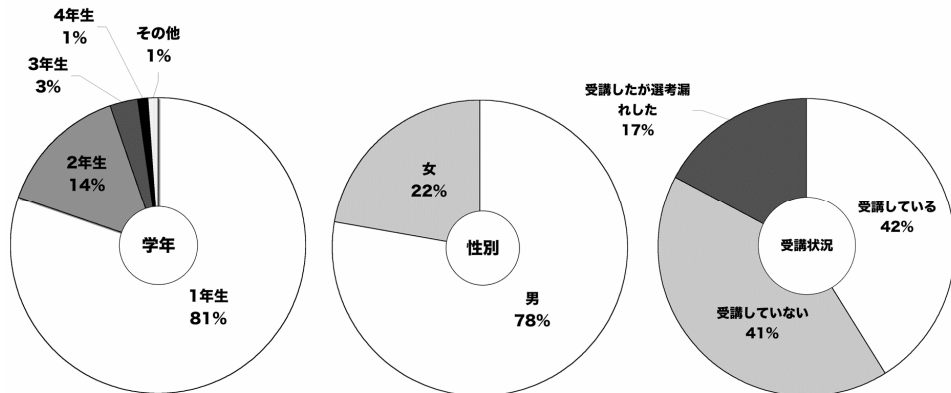


図 1 アンケート対象者の学年、性別およびスポーツ科学演習の受講状況

表 2 は Q3 において、スポーツ科学演習を「受講している」と答えた学生に対し、なぜ履修したのかを質問した際の回答率を示したものである。選択理由の上位 4 つは、「単位取得のため」64.7%、「楽しむため」51.0%、「運動不足解消のため」24.8%、「健康・体力の維持増進」19.6%の順となった。「単位取得のため」が最も多い理由の一つとして、本学においてスポーツ科学演習は実技科目から演習科目とし 1 単位から 2 単位科目としたことあげられる。天田⁴⁾は、半期間 2 単位科目としてのスポーツ科目実施が学生に要求されていることを、また石手ら⁷⁾は履修しない理由として半期 1 単位では学生は単位取得効率の悪さから履修意欲が薄れると分析していることから、本学において半期 2 単位修得できることが学生にとって履修意欲の向上につながっていると考えられる。また、5 割以上の学生が「楽しむため」と回答しており、スポーツ活動を通じ楽しむことを主眼としており、過去の報告⁵⁾と同様の受講動機であることが伺えた。

表 2. 「1. 受講している」と答えた方、なぜこの授業を履修しましたか。

	回答率
単位取得のため	64.7 %
運動不足解消のため	24.8 %
楽しむため	51.0 %
健康・体力の維持増進	19.6 %
友人を増やす	7.5 %
競技の技術向上のため	7.1 %
その他	3.0 %
無回答	1.4 %

(複数回答可)

表 3 は Q3 において、スポーツ科学演習を「受講していない」と答えた学生に対し履修しない理由を質問した際の回答率を示したものである。上位 3 つは、「時間割の関係で履修できないから」42.8%、「更衣するのがめんどくさい」23.3%、「履修するつもりがない」18.3%の順であった。石手ら⁷⁾は体育実技を履修しない学生を対象に、履修しない要因について調査分析を行ったところ、「履修しようとは思わなかった」が 7 割を占めたことを報告している。本学では、「履修するつもりがない」と回答した学生が 2 割弱と少なく、機会あれば履修しようと考えている学生も 5 割以上存在する。また、その後の質問で、「スポーツ活動の必要性」について質問すると 86%の学生が必要性を感じていることが認められた (図 2)。これは、必修科目である「健康科学理論」において生活習慣病予防を中心とした講義を展開し、健康・体力作りへの取り組みの必要性を講義し

ていることと関連性が考えられる。いずれにしても、受講していない学生も、スポーツ科学演習の受講を希望するものが多くみられることが明らかとなった。

表3. 「2. 受講していない」と答えた方、履修しなかった理由をお答えください

	回答率
更衣するのがめんどくさい	23.3 %
スポーツ活動が嫌い	11.1 %
必要ないから	8.8 %
履修するつもりがないから	18.3 %
時間割の関係で履修できないから	42.8 %
今後履修する予定だから	13.6 %
一緒にやる仲間がいない	6.1 %
身体的事情によりできない	1.8 %
無回答	2.3 %

(複数回答可)

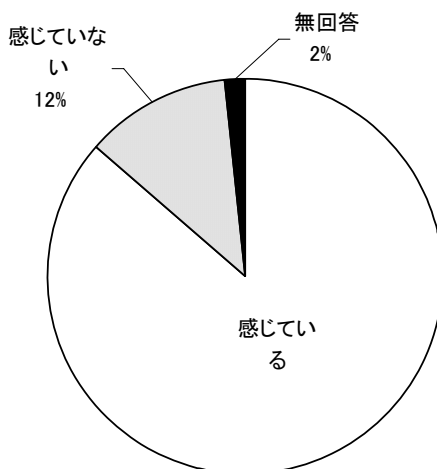


図2 「2. 受講していない」と答えた方、スポーツ活動の必要性は

表4はQ3において、「受講したが選考漏れした」と答えた学生に対し今後の履修について質問した際の回答率を示したものである。「時間が空いていれば受講する」48%、「来年度以降受講する」40%とほとんどの学生が来年度以降の受講に対して積極的なことが認められた。ところで、ここには記載しなかったが本学では施設利用上、また効果的な指導を行うため、スポーツ科学演習では履修定員を設けている。2009年度の履修希望者総数は1,118名であり、その内履修確定者

は、630名、履修できなかった学生が488名であり、履修希望者の約56%の学生しか受講出来ない現状である。2010年度現在授業開講日は火曜2,3限(7コース)木曜2,3,4限(12コース)全コース19コースで開講している。今後受講機会をもう少し増やすため火曜4限に3コース程度開講するなど、受講できる機会を増やすなどの改善が必要であると考ええる。

表4. 「3. 受講したが選考漏れした」と答えた方、今後の履修についてお答えください

	回答率
来年度以降受講する	40.4 %
時間割が空いていれば受講する	47.5 %
受講しない	7.7 %
余暇生活演習を受講する	0.5 %
無回答	3.8 %

2. 受講状況別によるスポーツに対する価値観の検討

表5は受講状況別に、スポーツに関する考え方などの質問に対する回答状況を示したものである。Q7-2「多くの友人を作ることができると思う」では、受講状況別に有意な差が認められた($p<0.01$)。具体的には「受講していない」グループが「受講している」グループと「受講したが選考漏れした」グループに比べ「多くの友人を作ることができると思う」という質問に対し、よく当てはまると答えたものが少ないことを示した。廣兼ら⁸⁾は、大学体育授業においてとくに、1年生前期に実施されていることは、「仲間づくり行動」という観点から、「新しい環境で新しい仲間と学びのスタートを切りたい」という学習者の気持ちにもふさわしいと述べている。本学においても、1年次の履修者が大半を占めていることから、このテーマを主題として授業を進めているが、事実、スポーツ科学演習を受講した学生は仲間づくりにスポーツ活動をうまく活用し、授業の効果が出現していることと推察された。

また、Q7-7「運動は得意である」についても、受講状況別に有意な差が認められた($p<0.01$)。すなわち、「受講している」グループまたは「受講したが選考漏れした」グループは運動が得意である傾向がみられ、「受講していない」グループは運動が得意でない傾向が認められ、スポーツの得意不得意が受講に影響を与えていることが示唆される。今後運動を不得意とする学生も興味を持ち履修できるような内容やコースの提供が課題であると考ええる。

表5. Q7の質問に対する受講状況別回答率

Q7-1:健康の増進に役立つと思う

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	4.0%	24.8%	71.2%
	度数		0	0	17	105	302
2	受講していない	%	0.2%	0.2%	5.8%	26.1%	67.6%
	度数		1	1	24	109	282
3	受講したが選考漏れした	%	1.1%	0.0%	3.9%	29.8%	65.2%
	度数		3	1	48	267	700

Q7-2:多くの友人を作ることができると思う

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	12.3%	36.8%	49.1%
	度数		3	5	52	156	208
2	受講していない	%	1.4%	4.1%	19.4%	35.7%	39.3%
	度数		6	17	81	149	164
3	受講したが選考漏れした	%	1.7%	0.6%	11.2%	32.0%	54.5%
	度数		3	1	20	57	97

p<0.01

Q7-3:体力を高めることができると思う

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	9.4%	28.3%	60.6%
	度数		2	5	40	120	257
2	受講していない	%	0.5%	0.5%	7.9%	25.4%	65.7%
	度数		2	2	33	106	274
3	受講したが選考漏れした	%	1.1%	0.0%	6.7%	24.2%	68.0%
	度数		2	0	12	43	121

Q7-4:楽しむことが大切である

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	4.5%	22.4%	72.4%
	度数		1	2	19	95	307
2	受講していない	%	0.2%	0.2%	7.2%	28.1%	64.3%
	度数		1	1	30	117	268
3	受講したが選考漏れした	%	1.1%	0.6%	4.5%	25.3%	68.0%
	度数		2	1	8	45	121

Q7-5:技術の向上が望める

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	19.6%	36.1%	40.6%
	度数		3	13	83	153	172
2	受講していない	%	1.9%	3.4%	25.4%	37.2%	32.1%
	度数		8	14	106	155	134
3	受講したが選考漏れした	%	1.7%	2.8%	18.5%	34.8%	42.1%
	度数		3	5	33	62	75

Q7-6:気が向いた時に行うものである

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	39.4%	25.0%	15.6%
	度数		24	61	167	106	66
2	受講していない	%	3.8%	9.4%	40.5%	26.6%	19.7%
	度数		16	39	169	111	82
3	受講したが選考漏れした	%	3.9%	11.2%	44.4%	28.1%	12.4%
	度数		7	20	79	50	22

Q7-7:運動は得意である

Q3: 受講状況		1 2 3 4 5					
		全く当てはまらない	当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	よく当てはまる	
1	受講している	%	0.0%	0.0%	28.8%	32.8%	27.1%
	度数		17	31	122	139	115
2	受講していない	%	11.3%	13.7%	33.6%	22.5%	18.9%
	度数		47	57	140	94	79
3	受講したが選考漏れした	%	4.5%	11.8%	30.3%	29.2%	24.2%
	度数		8	21	54	52	43

p<0.01

表6はQ8「将来の自分自身のスポーツ・運動実施について」受講状況別回答状況を示したものである。ここでも受講状況別に有意な差が認められた ($p<0.01$)。つまり、「受講している」学生は、スポーツ科学演習を履修し理論と実践を通じ、将来もスポーツを継続しようとする傾向が認められるものであった。則元ら⁹⁾は大学体育においては、高校までの体育授業の学習内容を補完し生涯にわたって運動・スポーツに携わっていくための動機づけと実践方法を教授する必要性を示唆している。つまり、本学におけるスポーツ・健康科目を受講することで、大学体育の目標がある程度達成されていることが今回の結果から伺える。

以上、スポーツ科学演習を受講することによって、スポーツ活動を通じた友人作りを体験することができ、生涯スポーツへとつながるスポーツ観の育成が行われていることが示唆された。

表6. Q8「将来の自分自身のスポーツ・運動実施について」受講状況別回答率

Q3: 受講状況		Q8: 将来の自分自身のスポーツ・運動実施について当てはまるもの一つに○をつけなさい						
		1	2	3	4	5	6	
1	受講している	%	18.9%	52.8%	17.9%	0.7%	9.0%	0.7%
		度数	80	224	76	3	38	3
2	受講していない	%	12.5%	26.1%	16.1%	0.7%	31.7%	12.9%
		度数	52	109	67	3	132	54
3	受講したが選考漏れした	%	16.3%	45.5%	12.4%	1.7%	21.3%	2.8%
		度数	29	81	22	3	38	5

$p<0.01$

IV. まとめ

スポーツ科目に対する意識の実態調査を行い、スポーツ科学演習受講状況別に比較した結果以下のことが認められた。「多くの友人を作ることができる」および「運動は得意である」の2項目については、受講状況別の回答率に有意な差が認められた。受講した学生はスポーツ活動を通じてうまく友人作りを行い、実際に役立っていることが認められた。また、運動の得意不得意が、受講の有無に影響を与えている可能性があることが示唆された。生涯スポーツに関わる質問項目においても、受講グループは積極的に将来もスポーツを継続しようとする傾向が強いことが認められた。このことは、「健康科学理論」を必修とし、生活習慣病に関する講義を行い健康に対し取り組む姿勢に一定の効果が現れていることが認められた。また、本学において高校までの体育授業の内容を補完し生涯にわたって運動・スポーツに携わっていくための動機づけの目標がある程度達成されていることが結果から伺える。今後のスポーツ科目において、運動が得意でない学生に対しスポーツ科学演習科目をどのように受講させられるか、魅力的なカリキュラムを提供できるかが重要な課題であると考えられる。

引用・参考文献

- 1) 石田博也・星島葉子・矢野博己・米谷正造・木村一彦(2002) 大学体育実技の今後のあり方に関して—K 大学健康体育実技履修選択の動向からの考察—。川崎医療福祉学会誌, 12:311-319
- 2) 小田伸午(2007) 京都大学スポーツ実習 アンケート調査より。大学体育, 89:96-98.
- 3) 田中神明ほか(1999) 慶応大学学生の体育実技の履修に関する実態調査。慶應義塾大学体育研究所紀要, 38:45-56.
- 4) 天田英彦(2007) 大学体育実技の履修に関する実態調査。流通科学大学教育高度化推進センター紀要, 3:1-9.
- 5) 青木敦英(2006) 大学体育授業における評価とその因子分析。流通科学大学論集 人間・社会・自然編, 19(1):29-38.
- 6) 天田英彦・青木敦英(2008) 大学体育実技の履修に関する実態調査—本学における必修時と選択時の比較について—。流通科学大学教育高度化推進センター紀要, 4:47-58.
- 7) 石手靖ほか(2008) なぜ体育実技を選ばないのか?—体育実技科目非履修者アンケート結果報告—。慶應義塾大学体育研究所紀要, 47:1-12.
- 8) 廣兼志保・大橋奈希左(2009) 大学体育授業における身体コミュニケーション力育成のための実践研究—学習者の内省分をてがかりとした評価項目の作成—。島根大学教育学部紀要, 43:31-39.
- 9) 則元志郎ほか(2009) 大学体育における知識・能力の形成(1)—大学入学時における保健体育教科の知識・実践力の実態と大学体育の課題—。熊本大学教育学部紀要 人文科学, 58:21-30.